

平成 22 年度

財団法人一般用医薬品セルフメディケーション振興財団

調査研究助成報告書

医療圏における OTC 医薬品の提供実態に関する調査研究

岩月 進¹⁾、榊原 幹夫²⁾、徐 宏美³⁾、坂巻 弘之³⁾

- 1) 刈谷薬剤師会
- 2) スギメディカル株式会社教育事業部
- 3) 名城大学薬学部

1. 研究の背景と目的

平成 21 年 6 月に一般用医薬品販売制度が変更となった。しかし、地域における一般用医薬品（以下 OTC 医薬品という）の提供の実態をマクロに考察したデータは未だに存在していない。個々の店舗については、1 類医薬品を配置しているものの、薬剤師が不在であるために時間帯によっては購入できなかつたり、あるいは、一般用医薬品が常備されていないような薬局もある。ただし、各店舗の経営方針の違いもあり、数千種類の一般用医薬品すべてを店舗に在庫として保有するのは現実的とは言えず、一般用医薬品によるセルフケアを強力に推進するためには、地域内の薬局間連携及び機能分化を制度設計として考慮すべきである。

そこで、本研究では、制度設計上の基礎資料としての地域における一般用医薬品の提供の現状把握を目的とした。

具体的には、二次医療圏における薬局、ドラッグストアのすべての店舗における一般用医薬品の提供の実態をアンケート調査により調査し、近隣関係にある薬局間で在庫保有されていないものの補完関係が成り立ちうるかを検討した。

2. 研究方法

以下の内容についてのアンケートを作成した。販売数量、在庫等については、平成 22 年 11 月時点のものを調査することとした。なお、倫理面の配慮として、アンケート調査用

紙に匿名性を保証することを記載し、アンケート返送を持って調査参加への同意とすることとした。アンケートにおける質問次項を資料として添付した。

- ・ 薬局属性：営業時間、近隣の医療機関、薬剤師数と勤務時間、登録販売者数と勤務時間、一般用医薬品配置スペース
- ・ 在庫状況：一般用医薬品、1類医薬品（全商品について悉皆調査）
- ・ 一般用医薬品販売状況：販売時間、説明方法・内容

調査対象地域は、愛知県下の2次医療圏の「西三河南部医療圏」としたが、予算制約があり、刈谷市と知立市の薬局、ドラッグストア等を対象とした（悉皆）。調査対象の店舗抽出は、「ネットリアル（DsFactory 株式会社）」を用い、対象地域の「調剤薬局」、「ドラッグストア」、「医薬品小売業（調剤薬局を除く）」の属性の店舗として90軒が抽出された。

これらの店舗に対して、往復アンケート方式により調査を実施した。アンケートの発送は平成22年12月12日、回収締め切りを平成23年1月11日とし、回収率を可能な限り上げるため、期日までに返送の無い店舗に対しては、2月末日まで電話督促を行った。

3. 結果

(1) 回収状況

最終的なアンケート回収数は57件であった。返送の無かった店舗に対して電話督促により廃業等が確認された店舗が8軒あり、当初の発送先90軒中、有効調査対象店舗は82軒であり、有効回答率69.5%であった。

(2) 開設主体およびスペース

回答の無かった1店舗を除く56店舗の開設主体は、法人開設の薬局が多かった(表1)。また、全店舗のスペースは、平均139.5㎡であり（無回答6店舗を除く）、OTC設置のスペースがない店舗が11店舗あり、それ以外のOTC設置スペースの平均は40.7㎡であった（無回答4店舗を除く）。

表1. 開設主体

法人開設薬局	個人開設薬局	法人開設薬店	個人開設薬店	合計
39	8	5	4	56
69.6%	14.3%	8.9%	7.1%	100.0%

上段：回答数、下段：合計に対する割合（無回答を除く）

(3)開店時刻と閉店時刻

平日、土曜とも9時から9時29分開店（開局）とするものが多かった。この時間帯開店のほとんどが9時開店であった。また、土曜を休業日とする店舗は無かった。日曜を休業とする店舗は33軒（63.5%）、祝日を休業とする店舗は29軒（55.8%）であった（表2）。

一方、閉店（閉局）については、平日は19時台に閉店するものが、土曜では12時台に閉店するものが、それぞれ最も多かった（表3）。

表2. 開店時刻

	8:59 以前	9:00～9:29	9:30～9:59	10:00 以降	休業	無回答	合計
平日	6 10.7%	32 57.1%	2 3.6%	16 28.6%	0 0.0%	1	57
土曜	6 10.7%	32 57.1%	2 3.6%	16 28.6%	0 0.0%	1	57
日曜	1 1.9%	5 9.6%	2 3.8%	11 21.2%	33 63.5%	5	57
祝日	2 3.8%	7 13.5%	1 1.9%	13 25.0%	29 55.8%	5	57

上段：回答数、下段：合計に対する割合（無回答を除く）

表3. 閉店時刻

	12:00 ～ 13:59	14:00 ～ 15:59	16:00 ～ 17:59	18:00 ～ 18:59	19:00 ～ 19:59	20:00 ～ 20:59	21:00 ～ 21:59	22:00 以降	休業	無回答	合計
平日	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.8%	30 53.6%	10 17.9%	7 12.5%	8 14.3%	0 0.0%	1	57
土曜	17 30.4%	2 3.6%	5 8.9%	3 5.4%	8 14.3%	6 10.7%	7 12.5%	8 14.3%	0 0.0%	1	57
日曜	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 5.8%	3 5.8%	5 9.6%	8 15.4%	33 63.5%	5	57
祝日	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 9.6%	3 5.8%	7 13.5%	8 15.4%	29 55.8%	5	57

上段：回答数、下段：合計に対する割合（無回答を除く）

(4) 従業員数と勤務時間

常勤薬剤師数は、平均1.8人であり、2名の店舗が最も多かった。また、薬剤師が常勤していない店舗は、1軒のみであった。常勤登録販売士は、0名の店舗が最も多く、23店舗と全体の47.9%を占め、（無回答9店舗を除く）、回答48店舗の平均1.0名、常勤登録販売士がいない店舗を除く25店舗での平均は1.9名であった（図1）。

薬剤師の勤務時間帯についてみると、勤務開始時刻は、平日、土曜とも9時から9時29分開店（開局）とするものが最も多かった。店舗の開店時刻と同じであるものが多く、開

店時刻より早く勤務開始とする店舗は少数であった（表 4）。また、勤務終了時刻も、平日は 19 時台に終了するものが、土曜では 12 時台に終了するものが、それぞれ最も多く、店舗の終了時刻と同様の傾向であった（表 5）。

土曜に薬剤師が不在となる店舗は 1 軒のみであったが、日曜や祝日では、不在となる店舗は 6 割を超えていた。

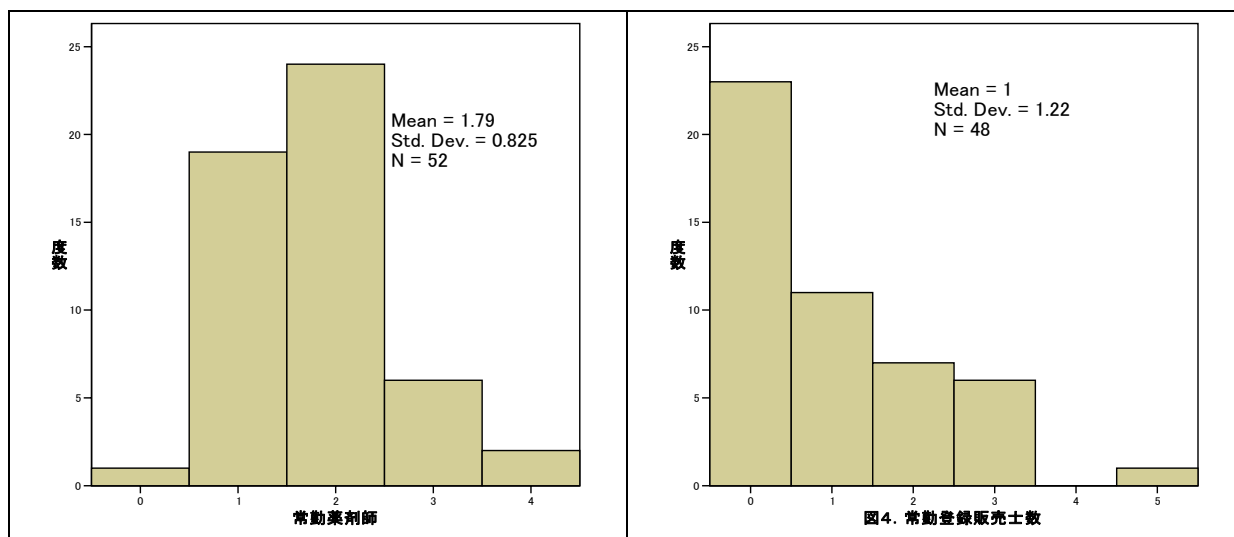


図 1. 従業員数の分布

表 4. 常勤薬剤師の勤務開始時刻

	7:59 以前	8:00~8:59	9:00~9:59	10:00 以降	不在	無回答	合計
平日	1 2.0%	6 11.8%	30 58.8%	14 27.5%	0 0.0%	6	57
土曜	1 2.0%	6 11.8%	30 58.8%	13 25.5%	1 2.0%	6	57
日曜	0 0.0%	2 4.7%	3 7.0%	9 20.9%	29 67.4%	14	57
祝日	0 0.0%	2 4.7%	5 11.6%	10 23.3%	26 60.5%	14	57

上段：回答数、下段：合計に対する割合（無回答を除く）

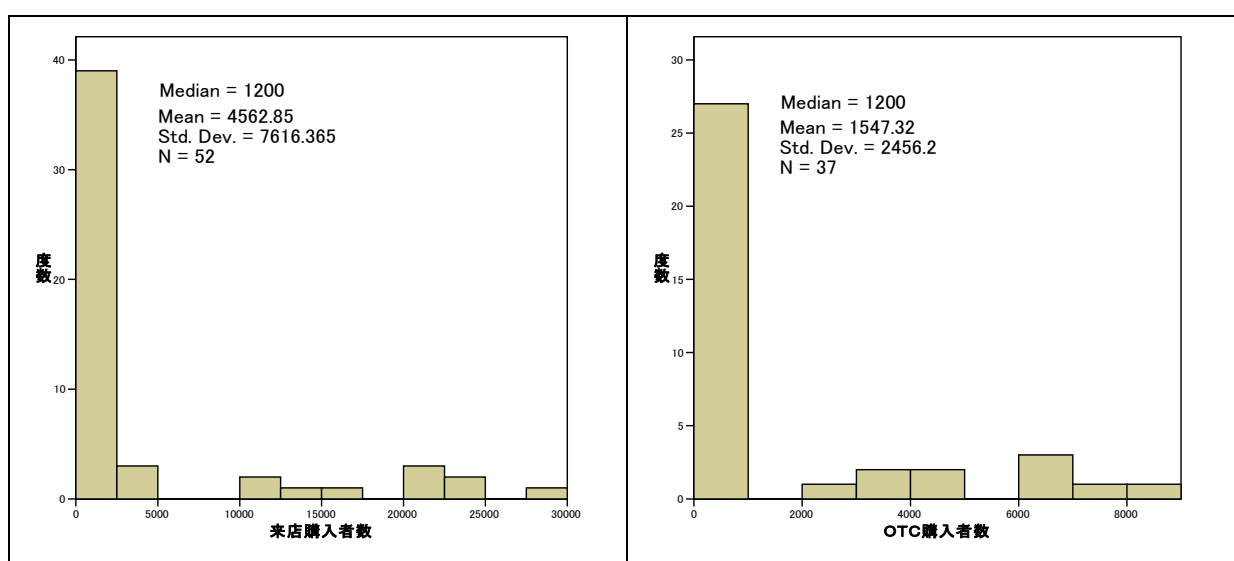
表 5. 常勤薬剤師の勤務終了時刻

	12:00 ~ 13:59	14:00 ~ 15:59	16:00 ~ 17:59	18:00 ~ 18:59	19:00 ~ 19:59	20:00 ~ 20:59	21:00 ~ 21:59	22:00 以降	不在	無回答	合計
平日	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.0%	30 58.8%	9 17.6%	4 7.8%	7 13.7%	0 0.0%	6	57
土曜	17 33.3%	3 5.9%	5 9.8%	2 3.9%	9 17.6%	3 5.9%	4 7.8%	7 13.7%	1 2.0%	6	57
日曜	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 9.3%	0 0.0%	3 7.0%	7 16.3%	29 67.4%	14	57
祝日	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 14.0%	0 0.0%	4 9.3%	7 16.3%	26 60.5%	14	57

上段：回答数、下段：合計に対する割合（無回答を除く）

(5) 来客数

平成 22 年 11 月に来店した平均消費者数は、購入者全体で 1 カ月あたり 4,563 名、中央値 1,200 名であり（無回答 5 店舗を除く、図 1）、OTC については、購入の無かった店舗が 12 店舗と全体の 24.5%を占め、（無回答 8 店舗を除く）、購入のあった 37 店舗の 1 カ月あたり平均購入者数 1,547 名、中央値 240 名であった（図 2）。図の通り、データが正規分布していないため中央値で見ると、1 日あたりの来客購入者数は 400 名、1 日あたりの OTC 購入者数は 40 名にピークがあるといえる。



(6) OTC 医薬品種類別販売状況

11 月の OTC 医薬品販売状況は、月 30 個以上の販売があった店舗は 50%であった。当該月に OTC の販売がなかった店舗も 24%あった。OTC 医薬品の販売があった店舗では、1 類医薬品の販売の中央値は 11 個であった。

表6. 11 月の販売状況

	0 個	1~29 個	30 個以上	合計	1 類医薬品			
					平均	中央値	0 個	無回答
(1)一般用医薬品	12 24.0%	13 26.0%	25 50.0%	50	55.13	4	11	8
(2)保健機能食品	15 30.0%	21 42.0%	14 28.0%	50				

上段：回答数、下段：合計に対する割合（無回答を除く）

銘柄の 1 規格・単位を 1 個と数え、一人の方が複数購入された場合も、それぞれ 1 個としてカウントしている。

薬効別にみた11月のOTC医薬品販売状況は、表7に示す通りで、総合感冒薬、消化薬、滋養強壮保健薬が多く売れており、一方、婦人薬、禁煙補助薬、公衆衛生用薬、検査薬は当該月の販売が0個の店舗が多かった。これらのうちの1類医薬品の販売が多かったものは、総合感冒薬、消化薬、皮膚に用いる薬であった。

表7. OTC薬の薬効別販売状況

	0個	1～5個	6個以上	合計	1類医薬品			
					平均	中央値	0個	無回答
(1)総合感冒薬	15 30.0%	10 20.0%	25 50.0%	50	8.78	2	9	8
(2)解熱鎮痛薬	16 32.0%	12 24.0%	22 44.0%	50	0.00	0	24	10
(3)鎮咳去痰薬	19 38.0%	10 20.0%	21 42.0%	50	0.21	0	21	7
(4)鎮暈薬	23 46.9%	10 20.4%	16 32.7%	49	0.00	0	24	2
(5)止瀉薬	18 36.0%	10 20.0%	22 44.0%	50	0.08	0	23	8
(6)消化薬	18 36.0%	7 14.0%	25 50.0%	50	12.31	3	8	3
(7)心臓や血液の薬	24 48.0%	11 22.0%	15 30.0%	50	0.00	0	24	2
(8)排泄部位の薬	24 48.0%	10 20.0%	16 32.0%	50	1.33	0	16	2
(9)婦人薬	27 54.0%	11 22.0%	12 24.0%	50	0.42	0	19	0
(10)アレルギー用薬	21 42.0%	14 28.0%	15 30.0%	50	1.46	0	16	5
(11)点鼻薬	23 46.0%	8 16.0%	19 38.0%	50	0.13	0	23	3
(12)眼科用薬	17 34.7%	10 20.4%	22 44.9%	49	0.29	0	19	8
(13)皮膚に用いる薬	16 32.0%	11 22.0%	23 46.0%	50	20.32	0.5	14	6
(14)歯や口中に用いる薬	21 43.8%	13 27.1%	14 29.2%	48	6.14	0	15	0
(15)禁煙補助薬	31 62.0%	9 18.0%	10 20.0%	50	5.60	1	11	0
(16)滋養強壮保健薬	17 34.0%	8 16.0%	25 50.0%	50	0.81	0	18	7
(17)漢方・生薬製剤	22 44.0%	7 14.0%	21 42.0%	50	0.00	0	24	4
(18)公衆衛生用薬	25 50.0%	8 16.0%	17 34.0%	50	0.67	0	21	1
(19)検査薬	29 58.0%	9 18.0%	12 24.0%	50	0.04	0	23	0

上段：回答数、下段：合計に対する割合（無回答を除く）

銘柄の1規格・単位を1個と数え、一人の方が複数購入された場合も、それぞれ1個としてカウントしている。

(7) 在庫状況

30種類以上の在庫を持つ点は63%であった。一方、OTC医薬品の在庫を持たない店舗も24%あった。OTC医薬品の在庫を有する店舗において、1類医薬品の在庫銘柄数は平均で19.4銘柄、中央値では7.5品目であった。また、1類医薬品の在庫を有しない店舗は9店舗であり、有効回答にしめる1類医薬品の在庫のある店舗の割合は81%であった（表8）。

表8. 在庫状況(銘柄数)

	在庫なし	1~29種類	30種類以上	合計	1類医薬品			
					平均	中央値	無回答 ¹	在庫なし ²
(1)一般用医薬品	13 24.1%	7 13.0%	34 63.0%	54	19.38	7.5	7	9 19.1%
(2)保健機能食品	16 30.2%	24 45.3%	13 24.5%	53				

上段:回答数、下段:合計に対する割合(無回答を除く)。

- 1) 1類医薬品の「無回答」は、1種類以上のOTC医薬品の在庫を有していると回答した店舗のうち1類医薬品の質問について回答の無かったもの。
- 2) 1類医薬品在庫なしの割合は、OTC医薬品在庫数量に対する有効回答から1類医薬品の無回答を除いた店舗数に対する割合。従って、1類医薬品在庫なしの割合の逆数が、有効回答のあったすべての店舗における1類医薬品の在庫のある店舗割合である。

例:1類医薬品在庫ありの割合=1-(9/(54-7))=1-19.1=80.9%

薬効別にみたOTC医薬品の在庫状況は、表9に示す通りで、銘柄数が多い薬効としては、総合感冒薬、解熱鎮痛薬、消化薬、眼科用薬、皮膚に用いる薬であり、これらのうちの1類医薬品の販売が多かったものは、総合感冒薬、消化薬、皮膚に用いる薬であった。一方、1類医薬品の在庫のない店舗の多い薬効は、解熱鎮痛薬、止瀉薬、漢方・生薬製剤であった。

表9. 薬効別在庫状況(銘柄数)

	在庫なし	1~5種類	6種類以上	合計	1類医薬品			
					平均	中央値	無回答 ¹	在庫なし ²
(1)総合感冒薬	14 25.9%	10 18.5%	30 55.6%	54	2.33	2	10	8 18.2%
(2)解熱鎮痛薬	16 29.6%	10 18.5%	28 51.9%	54	0.96	0	14	21 52.5%
(3)鎮咳去痰薬	20 37.0%	11 20.4%	23 42.6%	54	1.17	0	10	13 29.5%
(4)鎮暈薬	20 37.0%	18 33.3%	16 29.6%	54	0.80	0	9	14 31.1%
(5)止瀉薬	16 29.6%	14 25.9%	24 44.4%	54	0.52	0	15	22 56.4%
(6)消化薬	13 24.1%	13 24.1%	28 51.9%	54	3.24	2	7	7 14.9%
(7)心臓や血液の薬	24 44.4%	24 44.4%	6 11.1%	54	0.43	0	7	22 46.8%
(8)排泄部位の薬	21 39.6%	22 41.5%	10 18.9%	53	1.71	0	8	13 28.9%
(9)婦人薬	22 41.5%	22 41.5%	9 17.0%	53	1.27	1	5	12 25.0%
(10)アレルギー用薬	19 35.2%	18 33.3%	17 31.5%	54	1.71	1	7	12 25.5%
(11)点鼻薬	18 33.3%	19 35.2%	17 31.5%	54	0.54	0	8	22 47.8%
(12)眼科用薬	16 29.6%	10 18.5%	28 51.9%	54	2.80	1	13	12 29.3%
(13)皮膚に用いる薬	16 30.2%	8 15.1%	29 54.7%	53	6.19	2	6	9 19.1%
(14)歯や口中に用いる薬	19 36.5%	19 36.5%	14 26.9%	52	1.76	2	4	13 27.1%
(15)禁煙補助薬	25 48.1%	25 48.1%	2 3.8%	52	1.93	2	0	10 19.2%
(16)滋養強壮保健薬	16 31.4%	10 19.6%	25 49.0%	51	2.50	1	7	13 29.5%
(17)漢方・生薬製剤	18 34.0%	11 20.8%	24 45.3%	53	1.74	0	12	22 53.7%
(18)公衆衛生用薬	20 37.7%	15 28.3%	18 34.0%	53	1.32	0	8	15 33.3%
(19)検査薬	23 43.4%	29 54.7%	1 1.9%	53	0.30	0	7	21 45.7%

上段:回答数、下段:合計に対する割合(無回答を除く)。

- 1) 1類医薬品の「無回答」は、1種類以上のOTC医薬品の在庫を有していると回答した店舗のうち1類医薬品の質問について回答の無かったもの。
- 2) 1類医薬品在庫なしの割合は、OTC医薬品在庫数量に対する有効回答から1類医薬品の無回答を除いた店舗数に対する割合。従って、1類医薬品在庫なしの割合の逆数が、有効回答のあったすべての店舗における1類医薬品の在庫のある店舗割合である。

(8) 1 類医薬品と薬剤師の勤務状況

1 類医薬品は、薬剤師の対面販売が義務付けられている。そこで、1 類医薬品と薬剤師の勤務状況との関係について検討した。対象店舗は、OTC 在庫状況の調査（表 8）において 1 類医薬品の在庫があると回答した 25 店舗である（表 8 における「合計」－「OTC 在庫なし」－「無回答」－「1 類在庫なし」＝54－13－7－9＝25）。

1 類医薬品の在庫のある店舗では、常勤薬剤師の勤務開始時刻は、平日、土曜とも 10 時が最も多く、全店舗（表 4 参照）に比べ、薬剤師の勤務開始時刻がやや遅い傾向であった。ただし、平日、土曜に薬剤師が不在となる店舗はなかった。日曜、祝日では、約半数の店舗では薬剤師が不在となっていた。一方、勤務終了時刻は、平日 20 時までは半数以上の店舗で薬剤師が勤務していた。

表 10. 1 類医薬品の在庫のある店舗における常勤薬剤師の勤務開始時刻

	7:59 以前	8:00～8:59	9:00～9:59	10:00 以降	不在	無回答
平日	1 4.3%	3 13.0%	8 34.8%	11 47.8%	0 0.0%	2
土曜	1 4.3%	3 13.0%	8 34.8%	11 47.8%	0 0.0%	2
日曜	0 0.0%	2 10.5%	0 0.0%	8 42.1%	9 47.4%	6
祝日	0 0.0%	2 10.0%	2 10.0%	8 40.0%	8 40.0%	5

上段：回答数、下段：合計に対する割合（無回答を除く）

表 11. 1 類医薬品の在庫のある店舗における常勤薬剤師の勤務終了時刻

	12:00 ～ 13:59	14:00 ～ 15:59	16:00 ～ 17:59	18:00 ～ 18:59	19:00 ～ 19:59	20:00 ～ 20:59	21:00 ～ 21:59	22:00 以降	不在	無回答
平日					8 42.1%	6 31.6%	2 10.5%	7 36.8%	0 0.0%	2
土曜	1 4.5%	3 13.6%	2 9.1%	1 4.5%	4 18.2%	3 13.6%	2 9.1%	7 31.8%	0 0.0%	9
日曜					1 4.0%	0 0.0%	2 8.0%	7 28.0%	9 36.0%	6
祝日					3 12.0%	0 0.0%	2 8.0%	7 28.0%	8 32.0%	5

上段：回答数、下段：合計に対する割合（無回答を除く）

4. 考察

今回の調査は、地域における OTC 医薬品の供給状況、在庫保有状況から薬局間の代替性を検討することを主目的に実施した。1 類医薬品については、薬剤師の説明をもとに供給することが求められているが、様々な調査で、薬事法改正以降、在庫を置く薬局が減少していると指摘されている。OTC 医薬品は、処方せん薬に比べ、在庫リスクが高く、薬剤師の技術料もマージンに含まれるため、利益率も相対的に低い。

本来、薬局は、「薬局業務運営ガイドライン」に示されるように、薬局は、調剤、医薬品の供給を通じて国民に対し良質かつ適切な医療を行うよう努めるとともに、地域保健医療に貢献しなければならず、OTC 供給も重要な機能として認識されるべきである。しかしながら、上述のように在庫リスクもあり、すべての店舗がすべての OTC 医薬品の在庫をおくことが必ずしも必要とはいえない。

今回の調査で、有効回答のあった店舗のほぼ 8 割が 1 類医薬品の在庫を保有していることが明らかとなった。また、地域で見ると、平日、土曜日については 1 類医薬品を置く店舗での薬剤師が勤務していることがわかった。今後は、これらの情報を消費者が適切に得られるような情報公開の仕組みの構築が必要と思われる。

今回の調査は、予算制約もあり、刈谷市・知立市で実施したが、二次医療圏全体での調査が必要である。また、医薬分業の状況の違いなども考慮し、全国的な調査が求められる。

■貴店の概況についてお伺いいたします。

問1 貴店の開設主体等について該当するものに✓をおつけください。	
01□ 法人開設の薬局	02□ 個人開設の薬局
03□ 法人開設の薬店	04□ 個人開設の薬店

問2 貴店の営業時間を曜日ごとでご記入ください。休日の場合は休日欄に✓をおつけください。	
(1) 月～金曜	時 分 ～ 時 分
(2) 土曜	時 分 ～ 時 分 □休日
(3) 日曜	時 分 ～ 時 分 □休日
(4) 祝祭日	時 分 ～ 時 分 □休日
土日・祝祭日以外の定休日 または、営業時間短縮日	曜日 時 分 ～ 時 分

問3 貴店の店舗スペースならびに一般用医薬品陳列スペース ^(※) についてご記入ください。	
(1) 全店舗スペース	m ²
(2) 一般用医薬品陳列スペース	m ²

注：医薬部外品、健康食品等は除きます。

問4 平成22年11月1カ月間の来店購入者数およびそのうちの一般用医薬品購入者数 ^(※) についてご記入ください。	
(1) 来店購入者数	人/月
(2) 一般用医薬品購入者数	人/月

注：医薬部外品、健康食品等は除きます。

問5 貴店の従事者数を実人数でご記入ください。		
	(1) 薬剤師	(2) 登録販売士
(1) 常勤職員	人	人
(2) 非常勤職員	人	人

問6 貴店の従事者の勤務時間を曜日ごとにご記入ください。 休日あるいは勤務日でない場合は非勤務日欄に✓をおつけください。		
	(1) 薬剤師	(2) 登録販売士
(1) 月～金曜	時 分 ～ 時 分 □非勤務日	時 分 ～ 時 分
(2) 土曜	時 分 ～ 時 分 □非勤務日	時 分 ～ 時 分 □非勤務日
(3) 日曜	時 分 ～ 時 分 □非勤務日	時 分 ～ 時 分 □非勤務日
(4) 祝祭日	時 分 ～ 時 分 □非勤務日	時 分 ～ 時 分 □非勤務日

■貴店の一般用医薬品の在庫状況についてお問い合わせいたします。

問7 貴店における一般用医薬品ならびに保健機能食品 ^(※1) のおおまかな在庫数 ^(※2) をご記入ください。			
(1) 一般用医薬品	01□ 置いていない	02□ 1～29種類	03□ 30種類以上
		↓	
		このうちの第1類医薬品の品目数	
(2) 保健機能食品	01□ 置いていない	02□ 1～29種類	03□ 30種類以上

注1：保健機能食品：特定保健用食品および栄養機能食品

注2：在庫の種類は、総柄数で数えてください（規格・単位ではありません）。

問8 貴店における以下の一般用医薬品の薬効群ごとのおおまかな在庫数 ^(※) と第1類医薬品数をご記入ください。				
	01 置いていない	02 1～5種類	03 6種類以上	左のうちの第1類医薬品数をご記入ください。
(1) 総合感冒薬	01□	02□	03□	種類
(2) 解熱鎮痛薬	01□	02□	03□	種類
(3) 鎮咳去痰薬	01□	02□	03□	種類
(4) 鎮痙薬 (乗り物酔い防止薬)	01□	02□	03□	種類
(5) 止瀉薬、緩下剤・浣腸	01□	02□	03□	種類
(6) 制酸・健胃・消化薬、 胃腸鎮痛鎮痙薬	01□	02□	03□	種類
(7) 心臓や血液の薬	01□	02□	03□	種類
(8) 排泄部位の薬（痔など）	01□	02□	03□	種類
(9) 婦人薬	01□	02□	03□	種類
(10) アレルギー用薬（内服）	01□	02□	03□	種類
(11) 点鼻薬	01□	02□	03□	種類
(12) 眼科用薬	01□	02□	03□	種類
(13) 皮膚に用いる薬	01□	02□	03□	種類
(14) 歯や口中に用いる薬	01□	02□	03□	種類
(15) 禁煙補助薬	01□	02□	03□	種類
(16) 滋養強壮保健薬	01□	02□	03□	種類
(17) 漢方・生薬製剤	01□	02□	03□	種類
(18) 公衆衛生用薬	01□	02□	03□	種類
(19) 検査薬	01□	02□	03□	種類

注：在庫の種類は、総柄数で数えてください（規格・単位ではありません）。

■一般用医薬品の11月の販売状況についてお伺いいたします。

問9 貴店における一般用医薬品ならびに保健機能食品 ^(※1) の11月の販売数量 ^(※2) をご記入ください。			
(1) 一般用医薬品	01□ 0個	02□ 1～29個	03□ 30個以上
↓			
このうちの第1類医薬品の品目数			個
(2) 保健機能食品	01□ 0個	02□ 1～29個	03□ 30個以上

注1：保健機能食品：特定保健用食品および栄養機能食品

注2：購入された銘柄の1規格・単位を1個と数えてください。一人の方が複数購入された場合も、それぞれ1個としてください。

問10 貴店における以下の一般用医薬品の薬効群ごとの11月の販売数量 ^(※) と第1類医薬品数をご記入ください。				
	01 0個	02 1～5個	03 6個以上	左のうちの第1類医薬品数をご記入ください。
(1) 総合感冒薬	01□	02□	03□	個
(2) 解熱鎮痛薬	01□	02□	03□	個
(3) 鎮咳去痰薬	01□	02□	03□	個
(4) 鎮痙薬 (乗り物酔い防止薬)	01□	02□	03□	個
(5) 止瀉薬、緩下剤、浣腸	01□	02□	03□	個
(6) 制酸・健胃・消化薬、 胃腸鎮痛鎮痙薬	01□	02□	03□	個
(7) 心臓や血液の薬	01□	02□	03□	個
(8) 排泄部位の薬(痔など)	01□	02□	03□	個
(9) 婦人薬	01□	02□	03□	個
(10) アレルギー用薬(内服)	01□	02□	03□	個
(11) 点鼻薬	01□	02□	03□	個
(12) 眼科用薬	01□	02□	03□	個
(13) 皮膚に用いる薬	01□	02□	03□	個
(14) 歯や口中に用いる薬	01□	02□	03□	個
(15) 禁煙補助薬	01□	02□	03□	個
(16) 滋養強壮保健薬	01□	02□	03□	個
(17) 漢方・生薬製剤	01□	02□	03□	個
(18) 公衆衛生用薬	01□	02□	03□	個
(19) 検査薬	01□	02□	03□	個

一般用医薬品供給、インターネット販売についてご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

資料 2: OTC 供給、インターネット販売に対する自由意見

- ・ 全く必要なし
- ・ ネット販売で、サプリメントなどが誇大広告で紹介されていると、それを信じて試しに飲む人がいるのだろうと心配しています。
- ・ 医家、一般に関係なく、医薬品は安全性を最大限に確保することが大事と思っています。そのためにも専門家による対面販売という原則は絶対に変えてはならないと思います。
- ・ 1～3分類の分別に疑問が多い。インターネット販売を認めるなら医薬品から除外すべき。
- ・ インターネット販売に規制は必要と思われます。
- ・ 一般用とはいえ医薬品である以上、どのような状況か分からない購入者に対して販売できてしまうネット販売には反対です。
- ・ 大型チェーン店と比べ仕入値段の差に驚きます。薬の値段で客集め、チェーン店の多くは薬の販売の無責任さ、レジにてパートを置くだけで薬を薬としてみていない。インターネット販売においてはどんな薬事法にふれる薬が出る可能性が多い。
- ・ お店が何軒かあると値段の方、サービスの良い方に行ってしまう。在宅に行くと紙おむつか・・・など頼まれることがあります。顔が見えないのであれば供給してもよいと思いますがインターネットにカオの见えないものなので本人が飲むと限らないので規制を設けたいです。